資　料　3

香美市　アンケート調査結果（抜粋）

調査概要

（１）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

要介護状態になる前の高齢者について、要介護状態になるリスクの発生状況及び各種リスクに影響を与える日常生活の状況を把握し、地域の抱える課題を特定することを目的に実施しました。

対象者	令和４年 10 月１日現在、香美市内にお住まいの 65 歳以上の方 （要介護１～５の方を除く）		
実施期間	令和４年 12 月 5 日（月）～令和４年 12 月 30 日（金）		
実施方法	郵送配布、郵送回収		
配布数	8,298 件	有効回答数	4,994 件
回収数	5,096 件	有効回答率	60.2%

※前回調査の有効回答件数及び回答率は以下の通りです。
配布数：8,700 件、回収数：5,035 件、有効回答数：4,768 件、有効回答率：54.8%

（２）在宅介護実態調査

「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的に実施しました。

対象者	令和４年 10 月１日現在、要介護１～５認定者		
実施期間	令和４年 10 月１日（金）～令和５年１月 12 日（水）		
実施方法	認定調査員による聞き取り		
配布数	197 件	有効回答数	197 件
回収数	197 件	有効回答率	100.0%

（３）居所変更実態調査

施設・居住系サービスでの生活の継続性を高めるために必要な機能や、外部サービス資源との連携等を検討し、具体的な取組につなげていくことを目的として、南国市、香南市と合同で実施しました。

対象者	施設・居住系サービスの管理者の方		
実施期間	令和５年４月 21 日（金）～令和５年５月 31 日（水）		
実施方法	市ホームページに調査票を掲載、郵送・メールでの回答回収		
配布数	53 事業所	有効回答数	46 事業所
回収数	46 事業所	有効回答率	86.8%

（４）在宅生活改善調査

住み慣れた地域での生活の継続性を高めるために必要な支援やサービス、連携の在り方を検討することを目的に、南国市、香南市と合同で実施しました。

対象者	居宅介護支援事業所、介護予防支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所のケアマネジャー		
実施期間	令和５年４月 21 日（金）～令和５年５月 31 日（水）		
実施方法	市ホームページに調査票を掲載、郵送・メール・WEB での回答回収		
配布数	33 事業所	有効回答数	33 事業所
回収数	33 事業所	有効回答率	100.0%

（５）介護人材実態調査

地域内の介護人材の確保・サービス提供方法の改善などにつなげていくことを目的に、南国市、香南市と合同で実施しました。

対象者	通所系・短期系サービス、訪問系を含むサービス、施設・居住系サービスの管理者の方		
実施期間	令和５年４月 21 日（金）～令和５年５月 31 日（水）		
実施方法	市ホームページに調査票を掲載、郵送、メール、WEB での回収		
配布数	180 事業所	有効回答数	111 事業所
回収数	111 事業所	有効回答率	61.7%

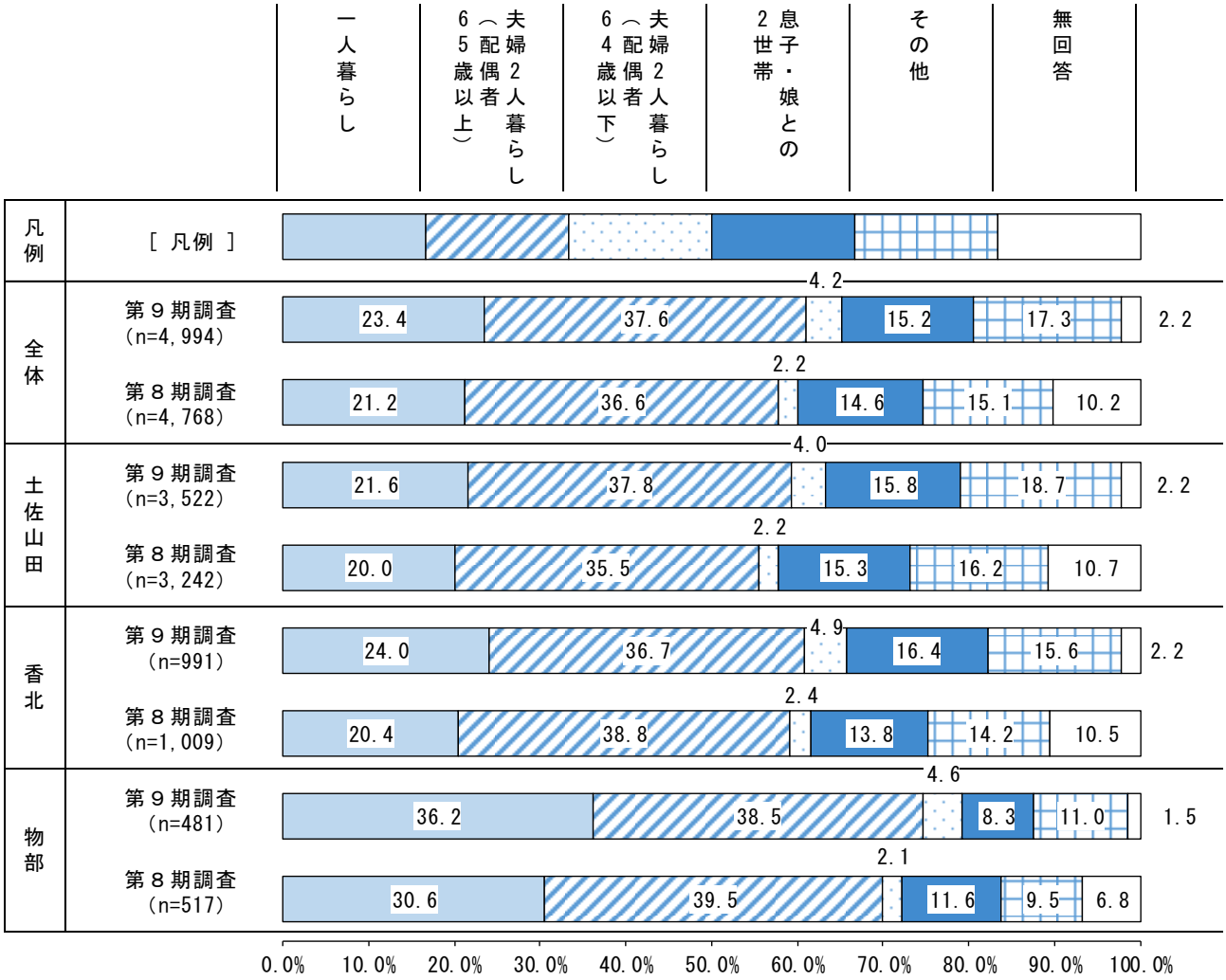
調査結果

Ⅰ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

●家族構成

家族構成をみると、全体では「一人暮らし」（23.4%）、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」（37.6%）、「夫婦２人暮らし（配偶者 64 歳以下）」（4.2%）、「息子・娘との２世帯」（15.2%）、「その他」（17.3%）となっており、前回調査と比べると「息子・娘との２世帯」が 2.2 ポイント高くなっています。

地区別にみると、「一人暮らし」の方は、物部が最も多く 36.2%となっており、最も少ない土佐山田より 14.6 ポイント高くなっています。

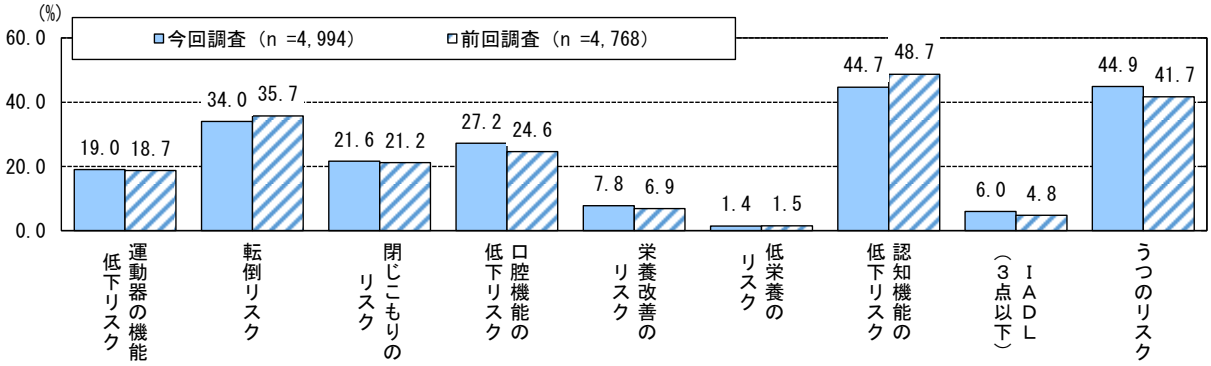


●リスク該当状況

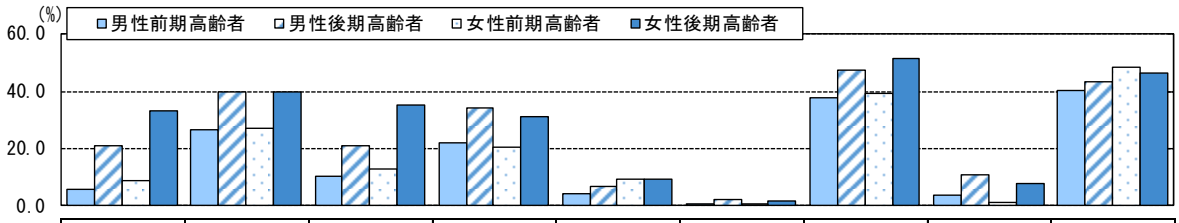
リスク該当状況をみると、うつのリスク（44.9%）、認知機能の低下リスク（44.7%）、転倒リスク（34.0%）、口腔機能の低下リスク（27.2%）、閉じこもりのリスク（21.6%）、運動器の機能低下リスク（19.0%）の順となっています。

また、うつを除くリスクで前期高齢者より後期高齢者の該当率が高く、口腔機能の低下と低栄養、IADL（３点以下）を除くリスクで、男性より女性の該当率が高くなっています。

地区別に前回調査と比較してみると、物部では閉じこもりのリスクが 3.7 ポイント増加し、他の地区より高くなっています。

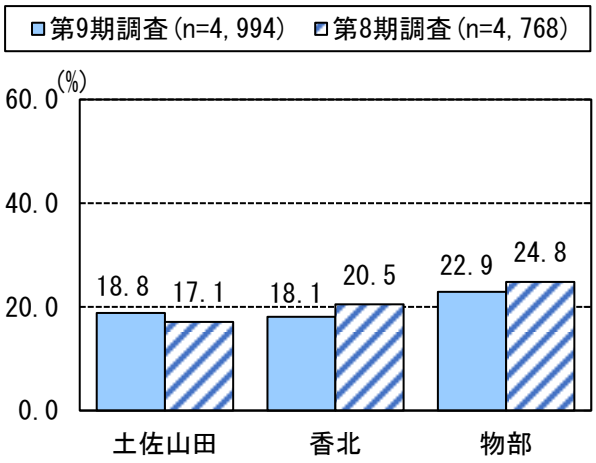


※IADL：買い物・洗濯・掃除・料理・金銭管理・服薬管理・交通機関の利用・電話の対応などの手段的日常生活動作。

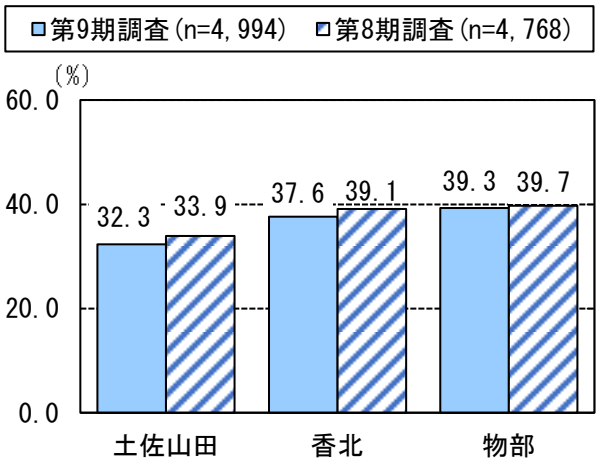


	運動器の機能低下リスク	転倒リスク	閉じこもりのリスク	口腔機能の低下リスク	栄養改善のリスク	低栄養のリスク	認知機能の低下リスク	ＩＡＤＬ（３点以下）	うつのリスク
男性前期高齢者	6.0	26.7	10.1	22.1	4.3	0.8	37.9	3.7	40.3
男性後期高齢者	20.8	39.7	21.1	34.1	6.7	2.2	47.3	11.0	43.3
女性前期高齢者	8.8	27.2	13.0	20.3	9.3	0.7	39.2	1.1	48.3
女性後期高齢者	33.4	39.9	35.4	31.0	9.5	1.6	51.4	8.0	46.2

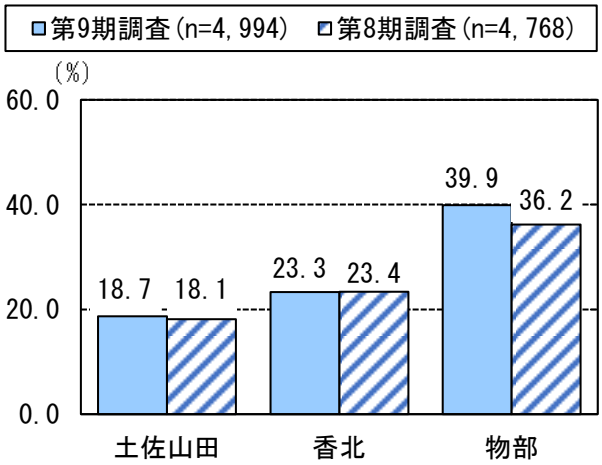
【運動器の機能低下リスク該当者】



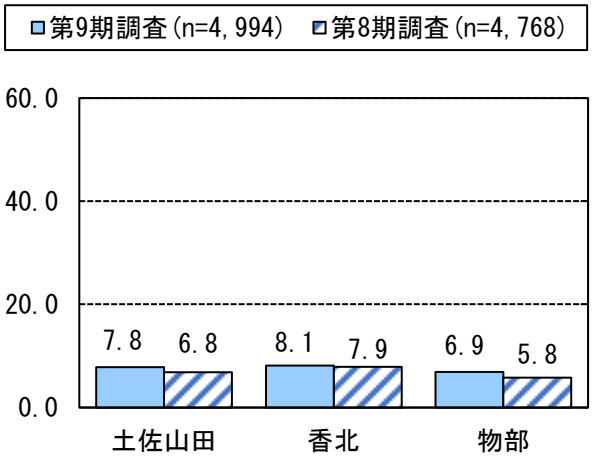
【転倒リスク該当者】



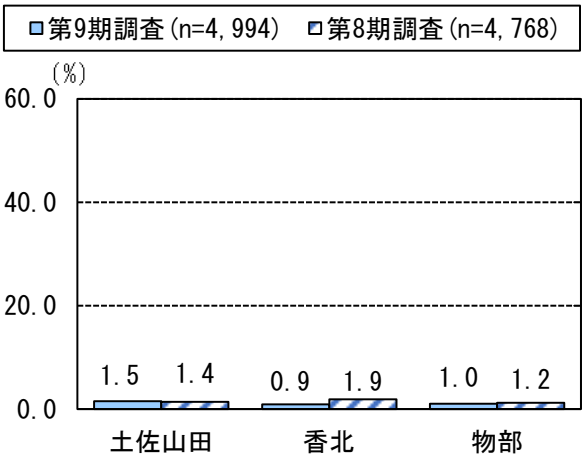
【閉じこもりのリスク該当者】



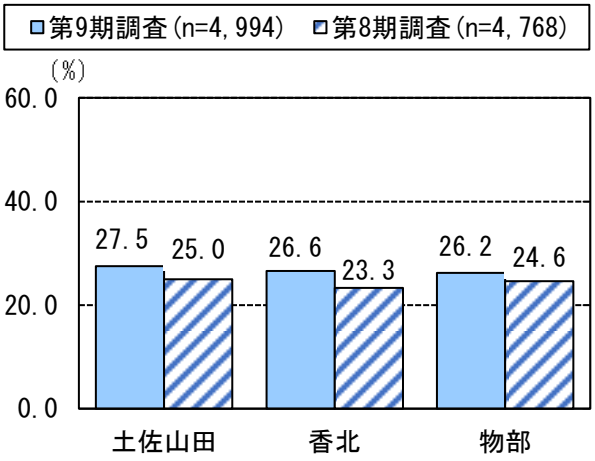
【栄養改善のリスク該当者】



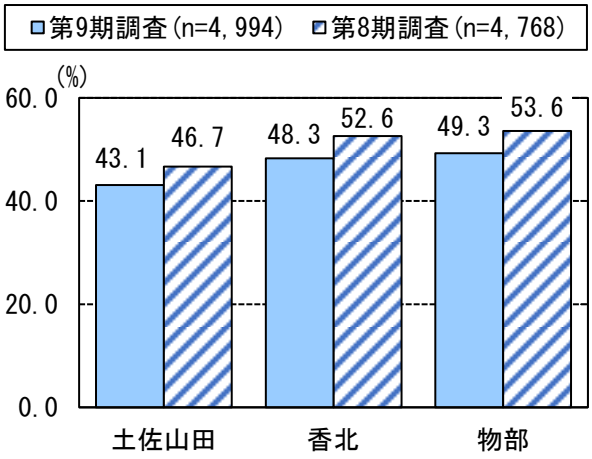
【低栄養のリスク該当者】



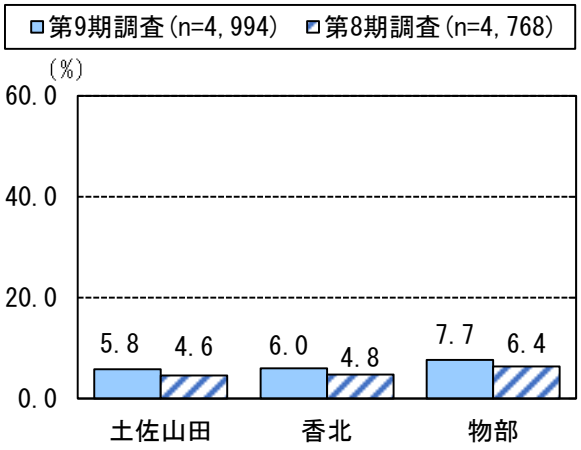
【口腔機能の低下リスク該当者】



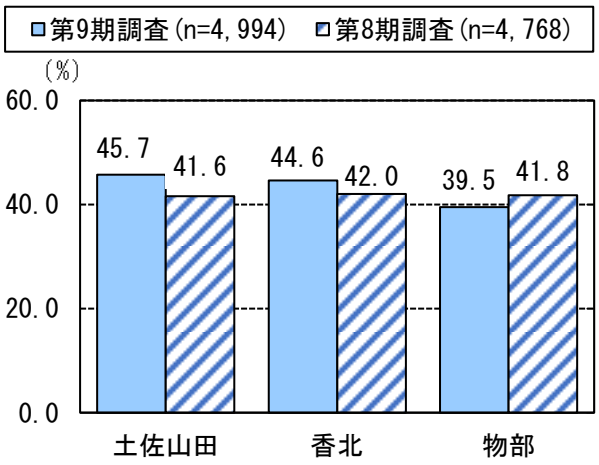
【認知機能の低下リスク該当者】



【IADL（３点以下）該当者】



【うつのリスク該当者】

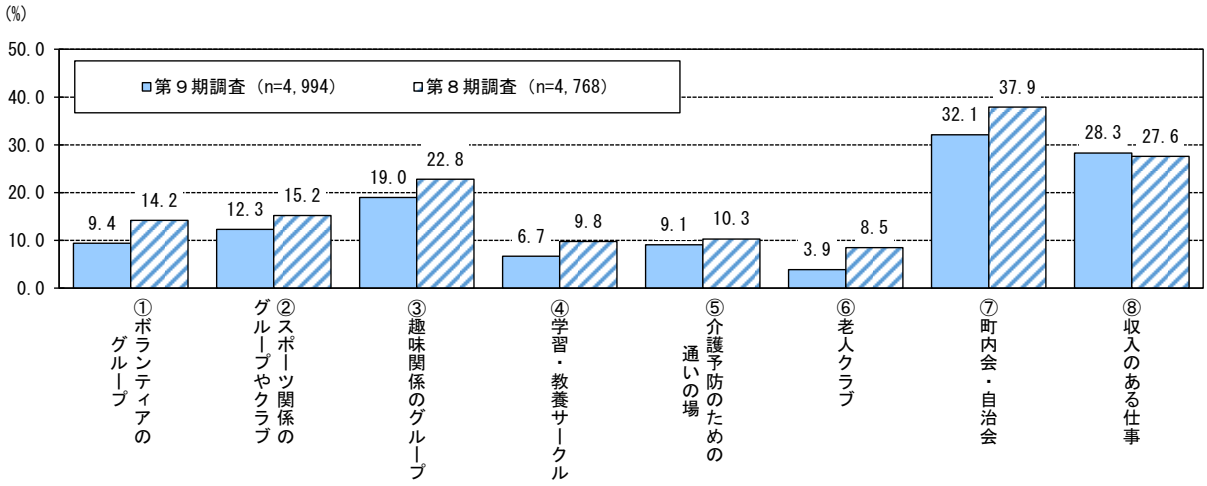


●会・グループ等への参加頻度

会・グループ等への参加頻度をみると、最も“参加頻度が高いもの（「参加していない」、「無回答」除く）”は⑦町内会・自治会（32.1%）、⑧収入のある仕事（28.3%）、③趣味関係のグループ（19.0%）、②スポーツ関係のグループやクラブ（12.3%）の順となっています。「週４回以上」、「週２～３回」、「週１回」を合わせた“週１回以上参加している人”をみると、⑧収入のある仕事（20.9%）、②スポーツ関係のグループやクラブ（8.1%）、③趣味関係のグループ（7.3%）の順となっています。

前回調査と比べると⑧を除いた活動で参加頻度が減少しています。

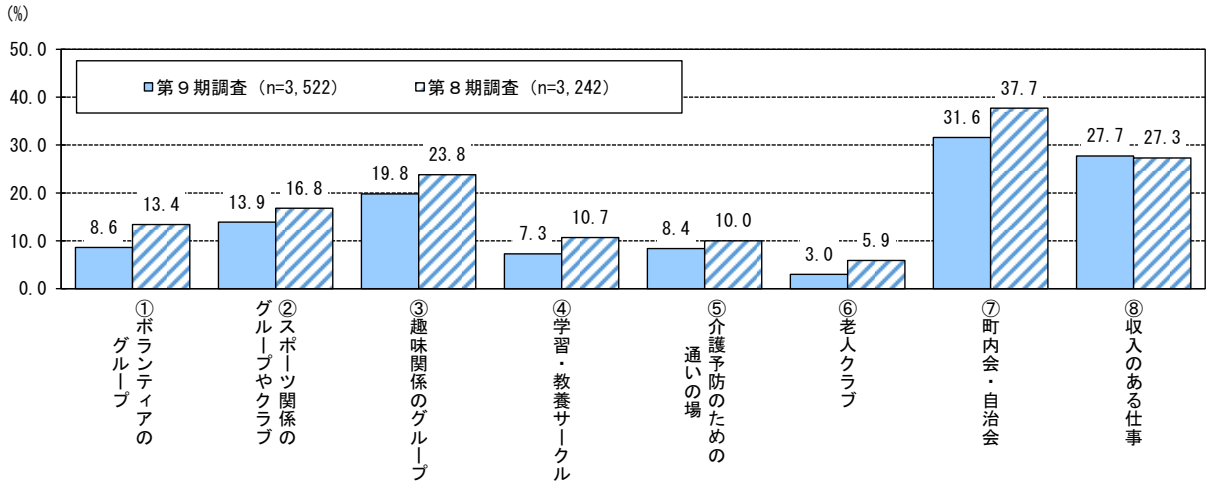
地区別にみると、香北のみ⑤が前回調査より増加している一方で、⑥は 11.6 ポイント減少しています。



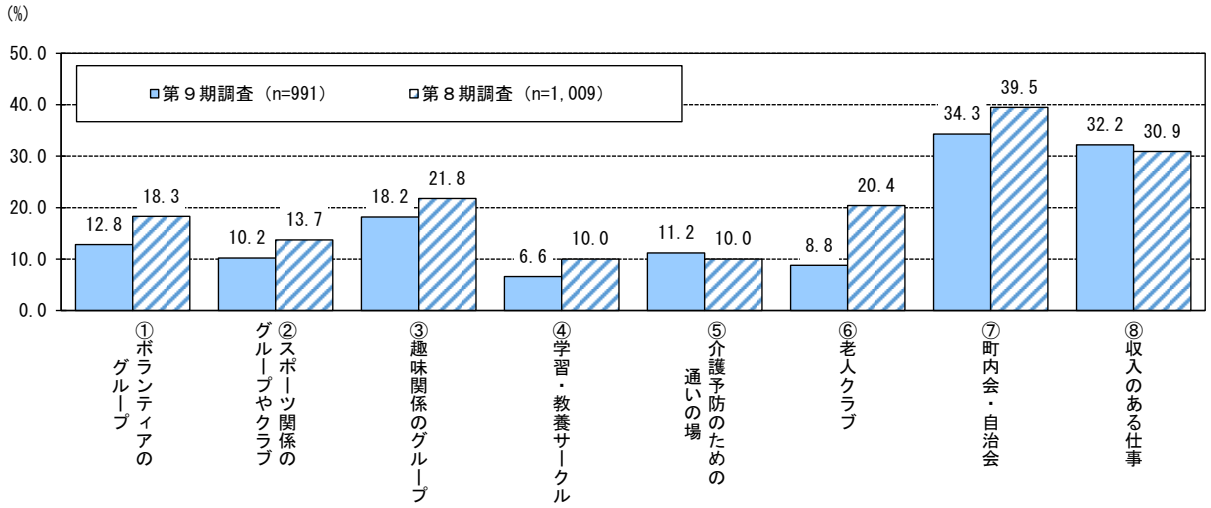
単位：%

	母数(n)	会・グループ等への参加頻度（全体）							“週1回以上参加している人”
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	
①ボランティアのグループ	4,994	0.3	0.9	0.9	3.0	4.3	66.4	24.1	2.1
②スポーツ関係のグループやクラブ	4,994	1.5	3.9	2.7	2.4	1.8	65.0	22.6	8.1
③趣味関係のグループ	4,994	1.2	2.8	3.3	7.0	4.7	59.9	21.0	7.3
④学習・教養サークル	4,994	0.2	0.3	0.7	2.3	3.2	68.4	24.9	1.2
⑤（体操・茶話会などの）介護予防のための通いの場	4,994	0.6	1.8	2.8	2.2	1.7	68.2	22.7	5.2
⑥老人クラブ	4,994	0.2	0.1	0.3	1.0	2.3	71.1	25.0	0.6
⑦町内会・自治会	4,994	0.2	0.2	0.4	2.6	28.7	46.1	21.8	0.8
⑧収入のある仕事	4,994	14.0	5.6	1.3	2.5	4.9	50.7	21.0	20.9

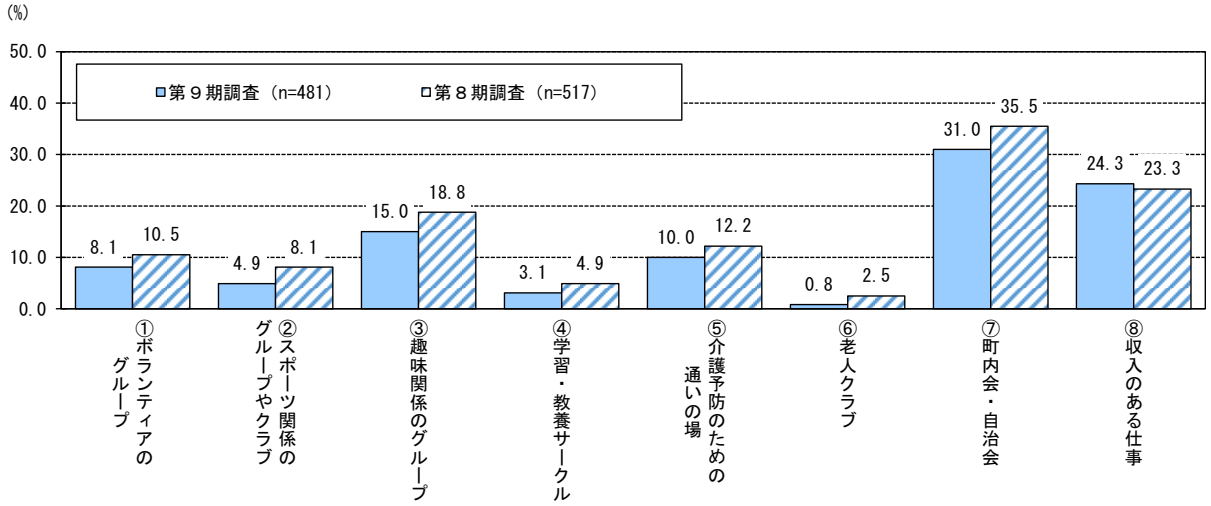
【土佐山田（「参加していない」「無回答」以外】



【香北（「参加していない」「無回答」以外】



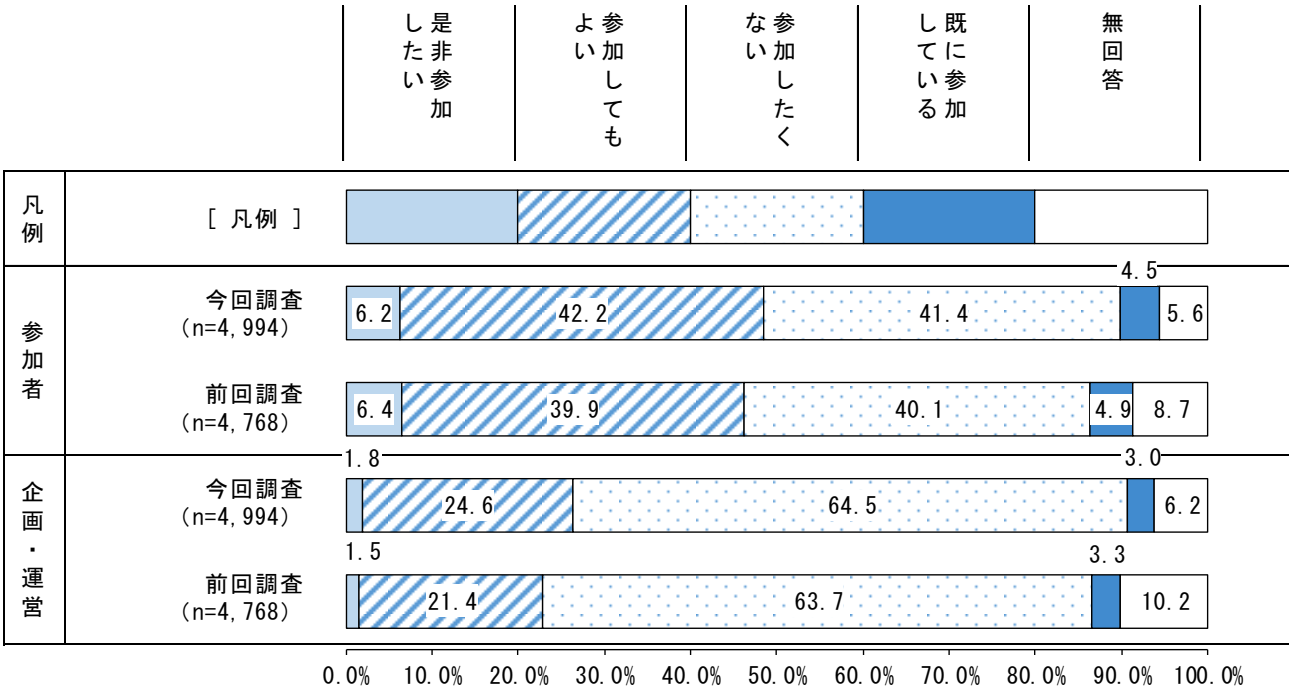
【物部（「参加していない」「無回答」以外】



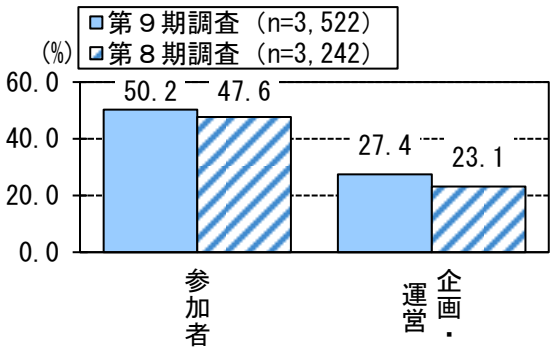
●健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向

健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向をみると、「是非参加したい」もしくは「参加してもよい」と答えた“参加意向がある方”は参加者としては 48.4%、企画・運営としては 26.4%と、参加者としての参加意向のほうが高くなっています。

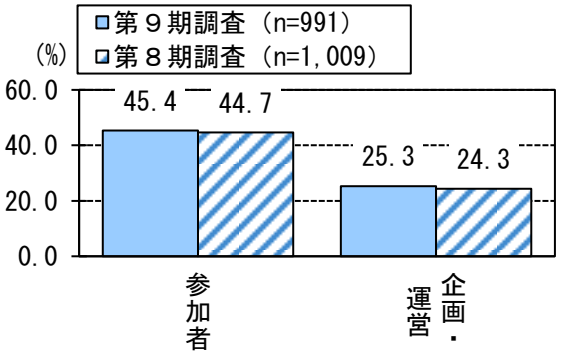
地区別にみると、参加者、企画・運営ともに、土佐山田が最も多く、前回調査と比べると、全ての地区で参加者、企画・運営ともに参加意向が高くなっています。



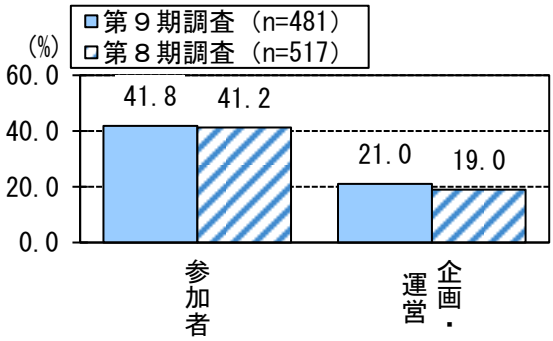
【土佐山田（参加意向あり）】



【香北（参加意向あり）】

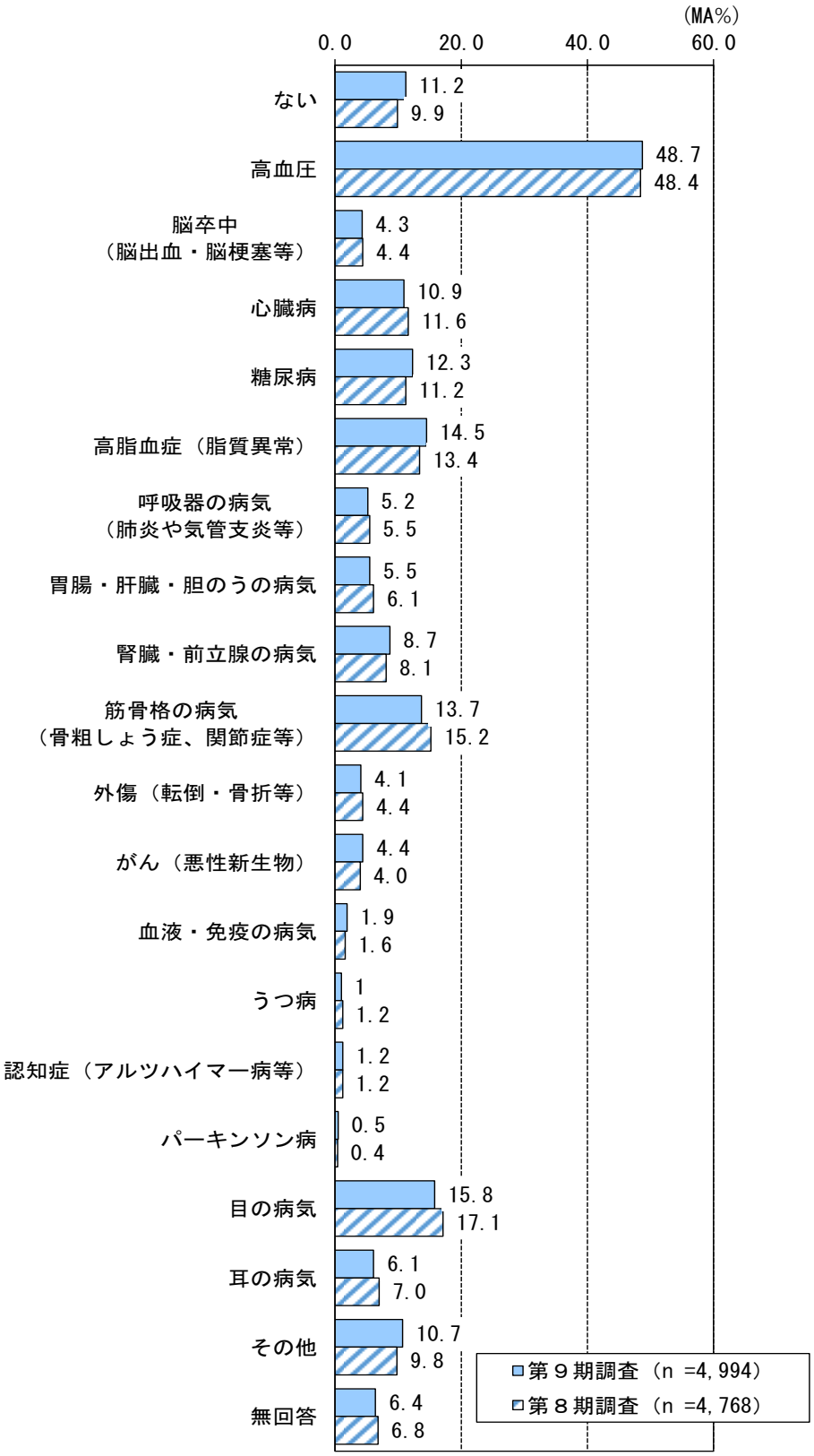


【物部（参加意向あり）】



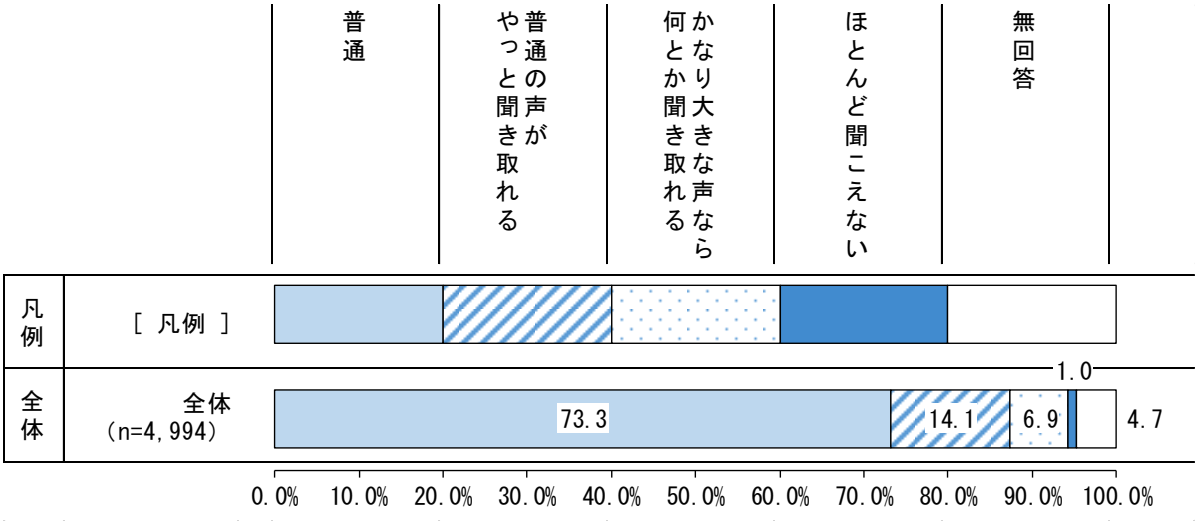
●疾病の状況

現在治療中、または後遺症のある病気をみると、「高血圧」（48.7%）が最も多く、次いで、「目の病気」（15.8%）、「高脂血症（脂質異常）」（14.5%）の順となっています。前回調査と比べると、「糖尿病」「高脂血症（脂質異常）」と回答した方が１ポイント以上増加しています。



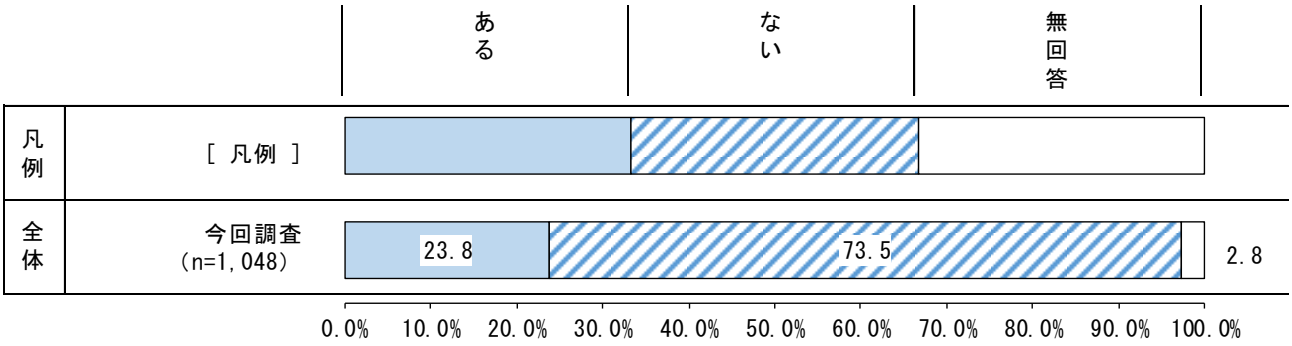
●現在の耳の聞こえの状態について

現在の耳の聞こえの状態をみると、「普通」が 73.3%で最も多く、次いで「普通の声がやっと聞き取れる」が 14.1%、「かなり大きな声なら何とか聞き取れる」が 6.9%となっています。



●補聴器の使用状況について

補聴器の使用状況をみると、「ある」は 23.8%、「ない」は 73.5%となっています。



■使用していない理由

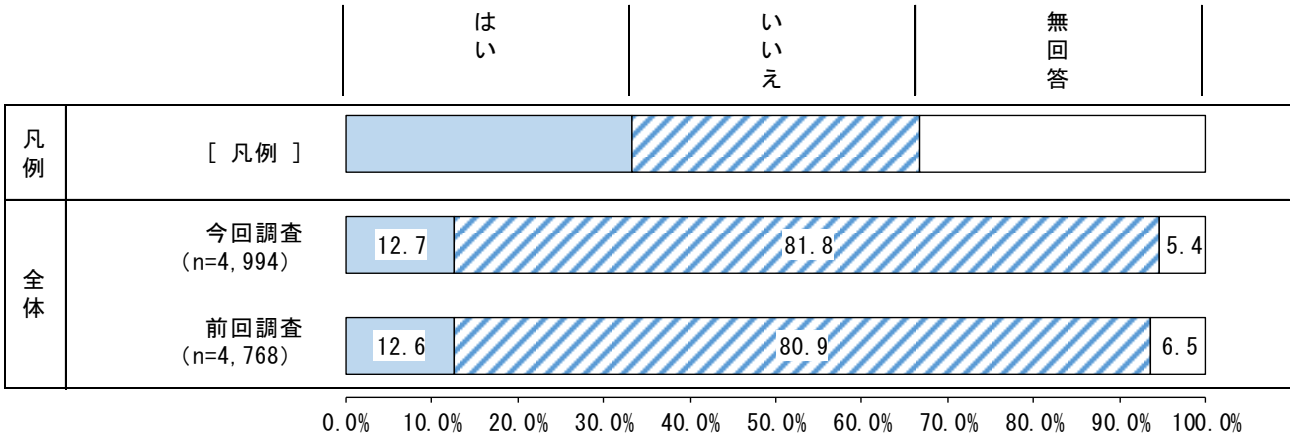
１位：使用しなくても何とか生活できているから

２位：補聴器は高額だから

３位：補聴器を使用することがわずらわしいから

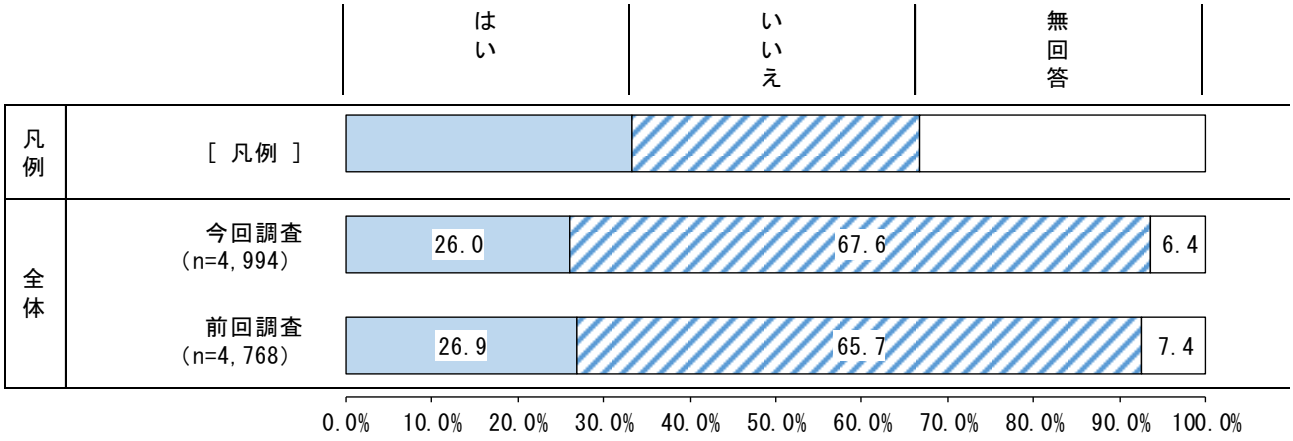
●認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人の有無について

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人の有無をみると、「はい」が12.7%、「いいえ」が81.8%となっています。



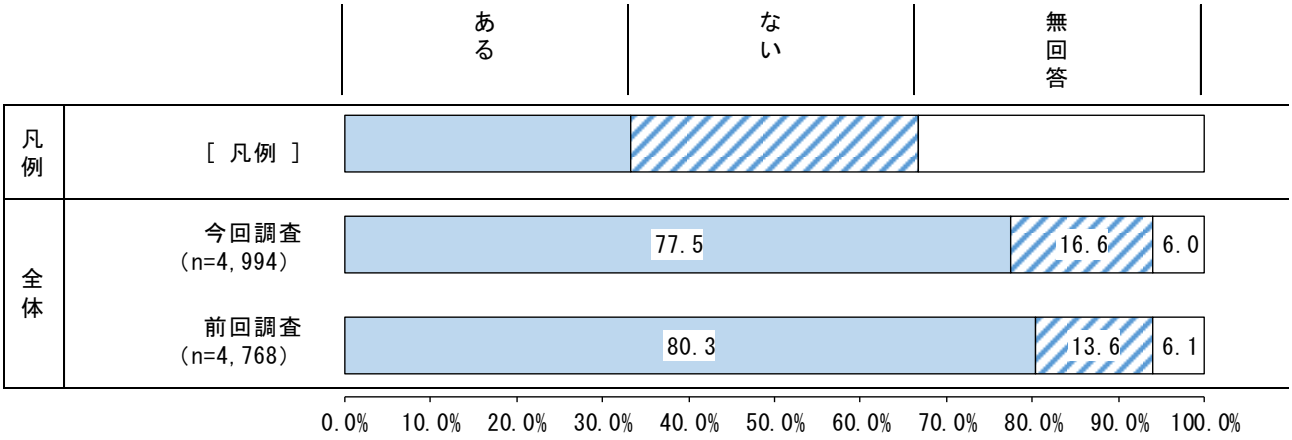
●認知症に関する相談窓口の認知ついて

認知症に関する相談窓口の認知状況をみると、「はい」が26.0%、「いいえ」が67.6%となっています。



●認知症への関心について

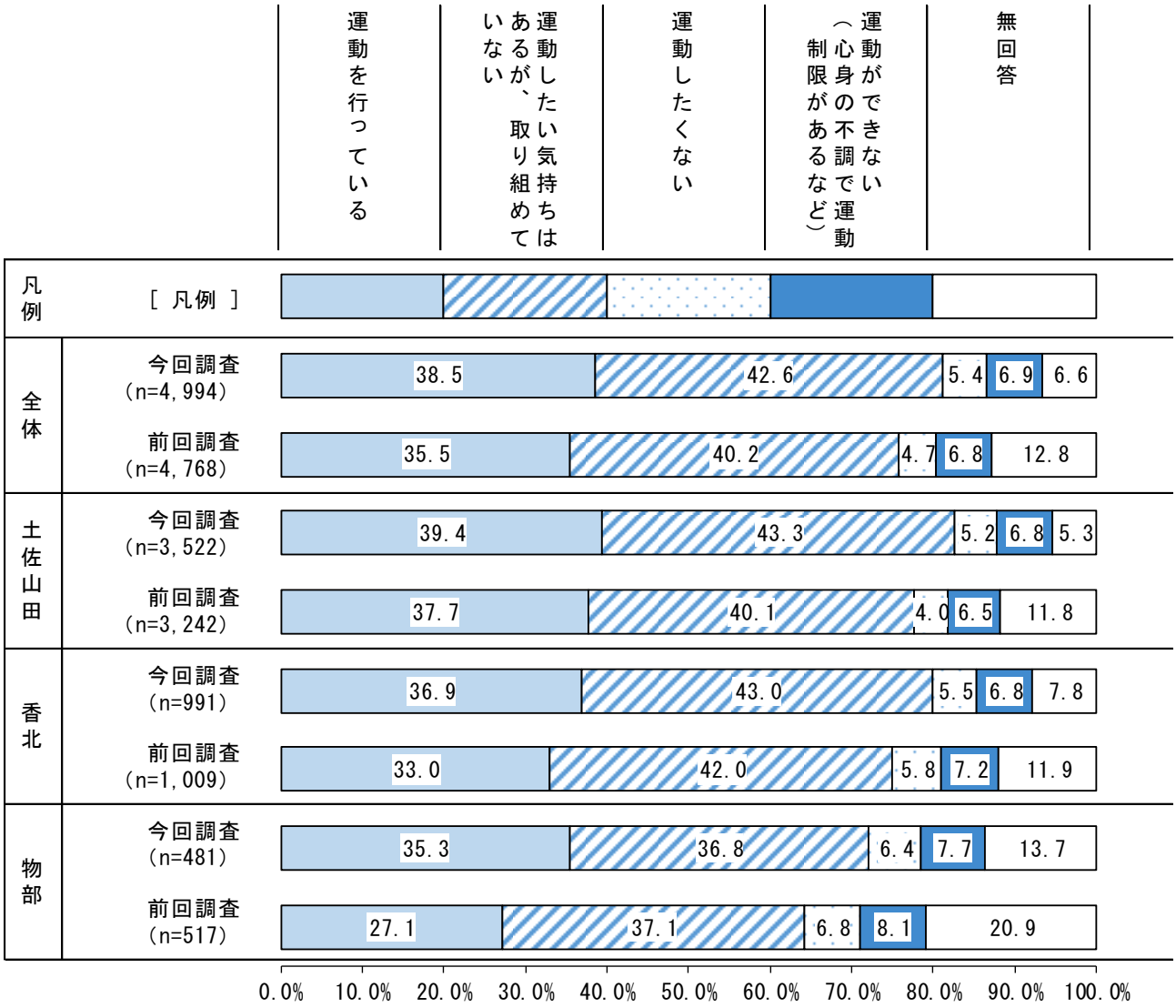
認知症への関心をみると、「ある」が77.5%、「いいえ」が16.6%となっています。



●普段の生活で１回 30 分以上の軽く汗をかく（少し息の切れる）程度の運動状況

普段の生活での運動状況をみると、全体では「運動したい気持ちはあるが、取り組めていない」（42.6%）、「運動を行っている」（38.5%）となっています。

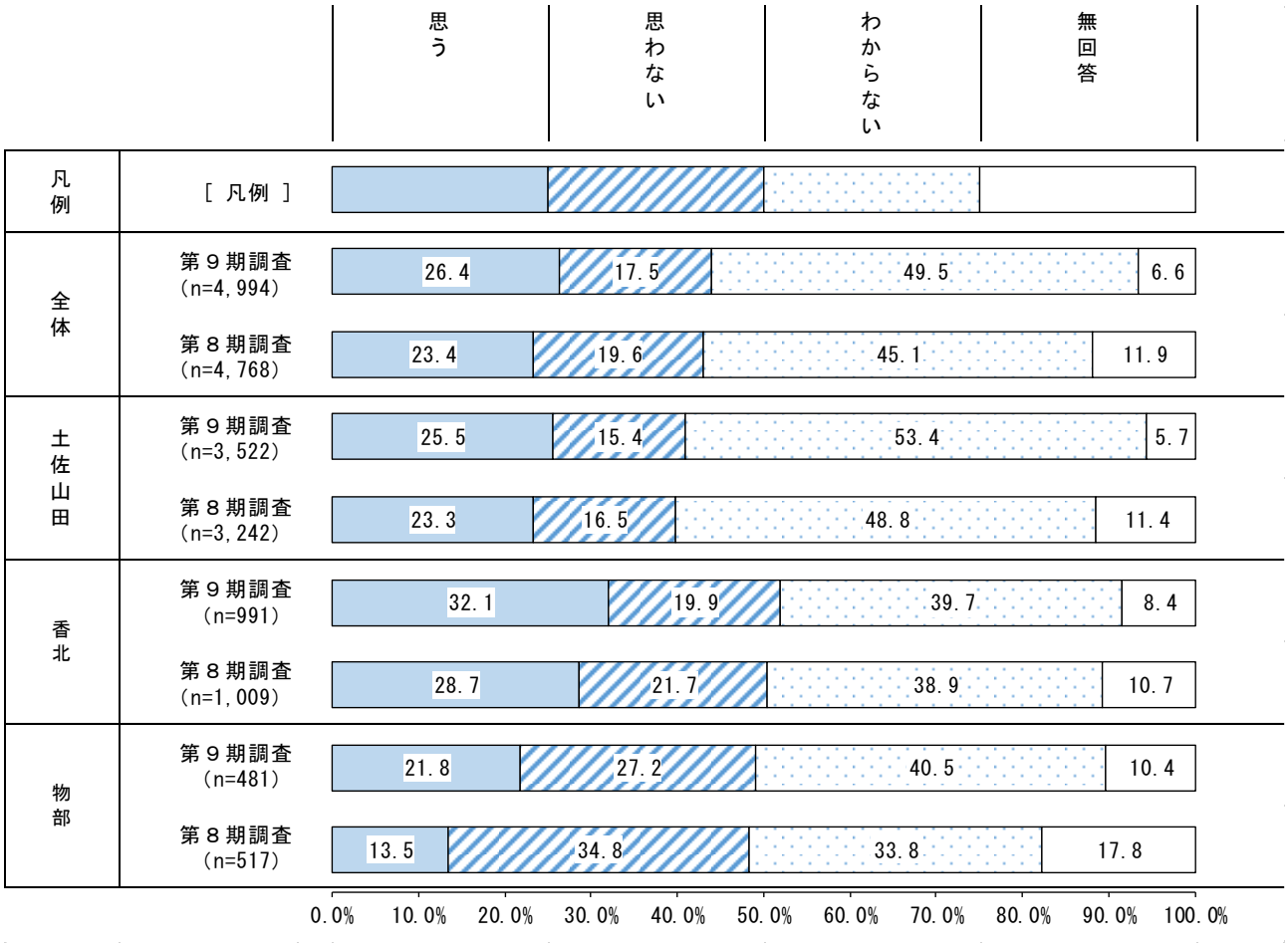
地区別にみても、すべての地区で、「運動したい気持ちはあるが、取り組めていない」と回答した方が最も多くなっています。前回調査と比べると、「運動を行っている」が、物部で 8.2 ポイント増加しています。



●香美市が高齢者にとって住みよいまちかについて

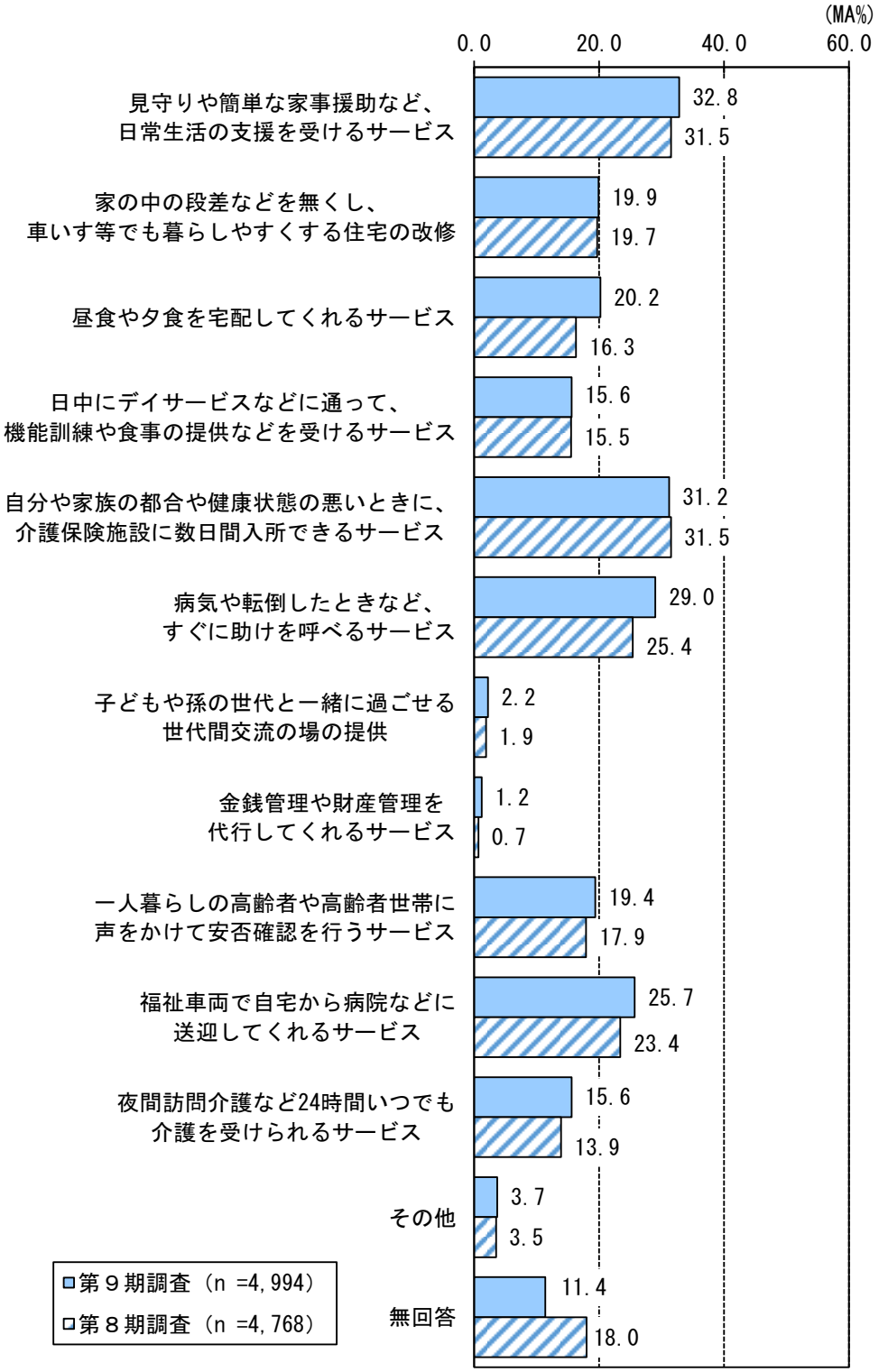
香美市が高齢者にとって住みよいまちかについてみると、全体では「思う」(26.4%)、「思わない」(17.5%)、「わからない」(49.5%) となっています。前回調査と比べると、「思う」が 3.0 ポイント増加、「思わない」が 2.1 ポイント減少しています。

地区別に「思う」についてみると、香北(32.1%)、土佐山田(25.5%)、物部(21.8%)の順となっています。物部では、前回調査と比べて「思う」が 8.3 ポイント増加、「思わない」が 7.6 ポイント減少しています。



●自宅で生活を続けるためには、どの様な支援が必要だと思うかについて

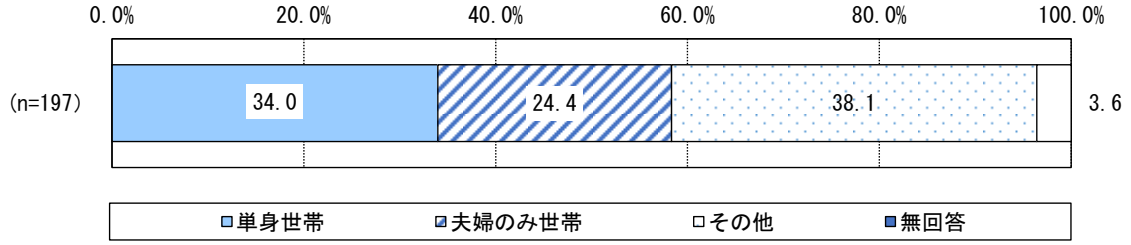
自宅で生活を続けるためには、どの様な支援が必要だと思うかについてみると、「見守りや簡単な家事援助など、日常生活の支援を受けるサービス」が 32.8%と最も多くなっており、次いで、「自分や家族の都合や健康状態の悪いときに、介護保険施設に数日間入所できるサービス」が 31.2%となっています。前回調査と比べると、「昼食や夕食を宅配してくれるサービス」が前回より 3.9 ポイント増加しています。



2 在宅介護実態調査

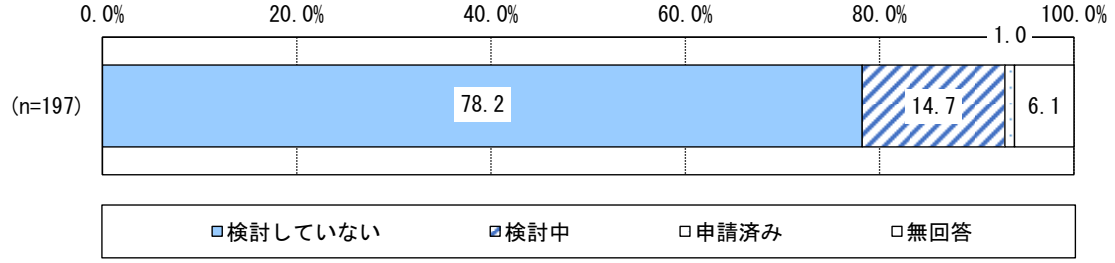
●世帯類型

世帯類型は、「単身世帯」が 34.0%、「夫婦のみ世帯」が 24.4%、「その他」では 38.1%となっています。



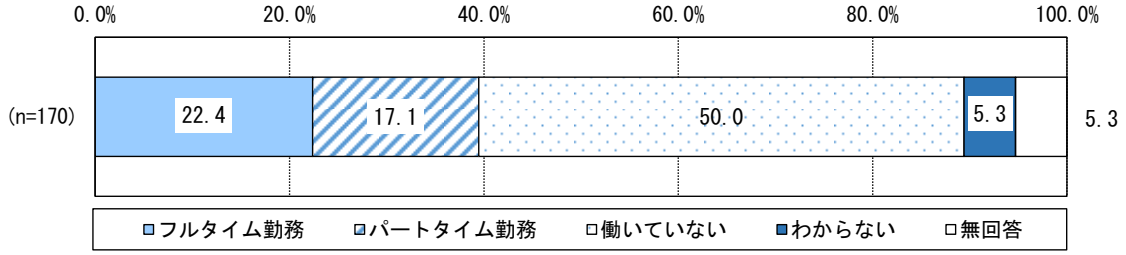
●施設等への入所・入居の検討状況

現時点での施設等への入所・入居の検討状況をみると、「検討していない」が 78.2%、「検討中」は 14.7%となっています。



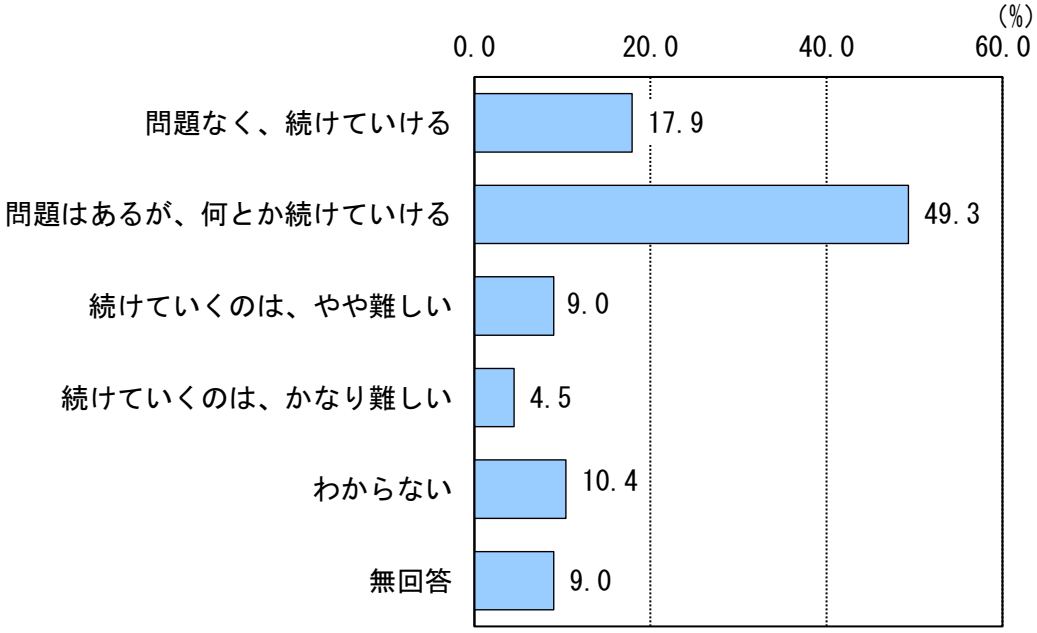
●主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態は、「働いていない」が 50.0%と最も多く、約半数を占めています。次いで、「フルタイム勤務」が 22.4%、「パートタイム勤務」では 17.1%の順となっています。



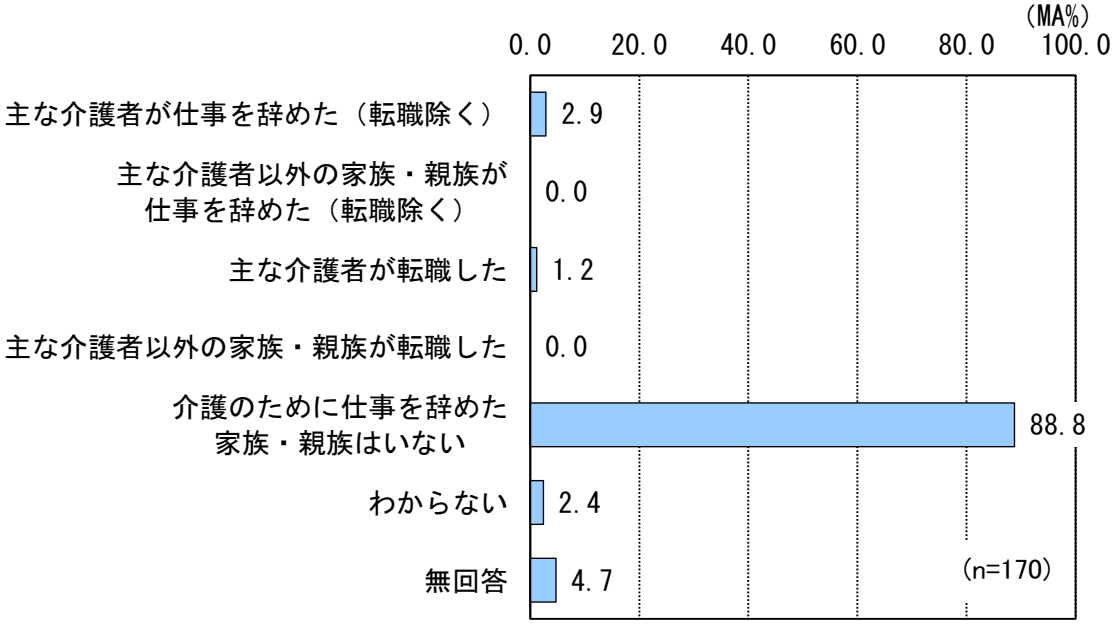
●主な介護者の就労継続状況

主な介護者の就労継続状況をみると、「問題はあるが、何とか続けていける」が 49.3%「問題なく、続けていける」が 17.9%となっています。一方で、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」の回答も一定数みられます。



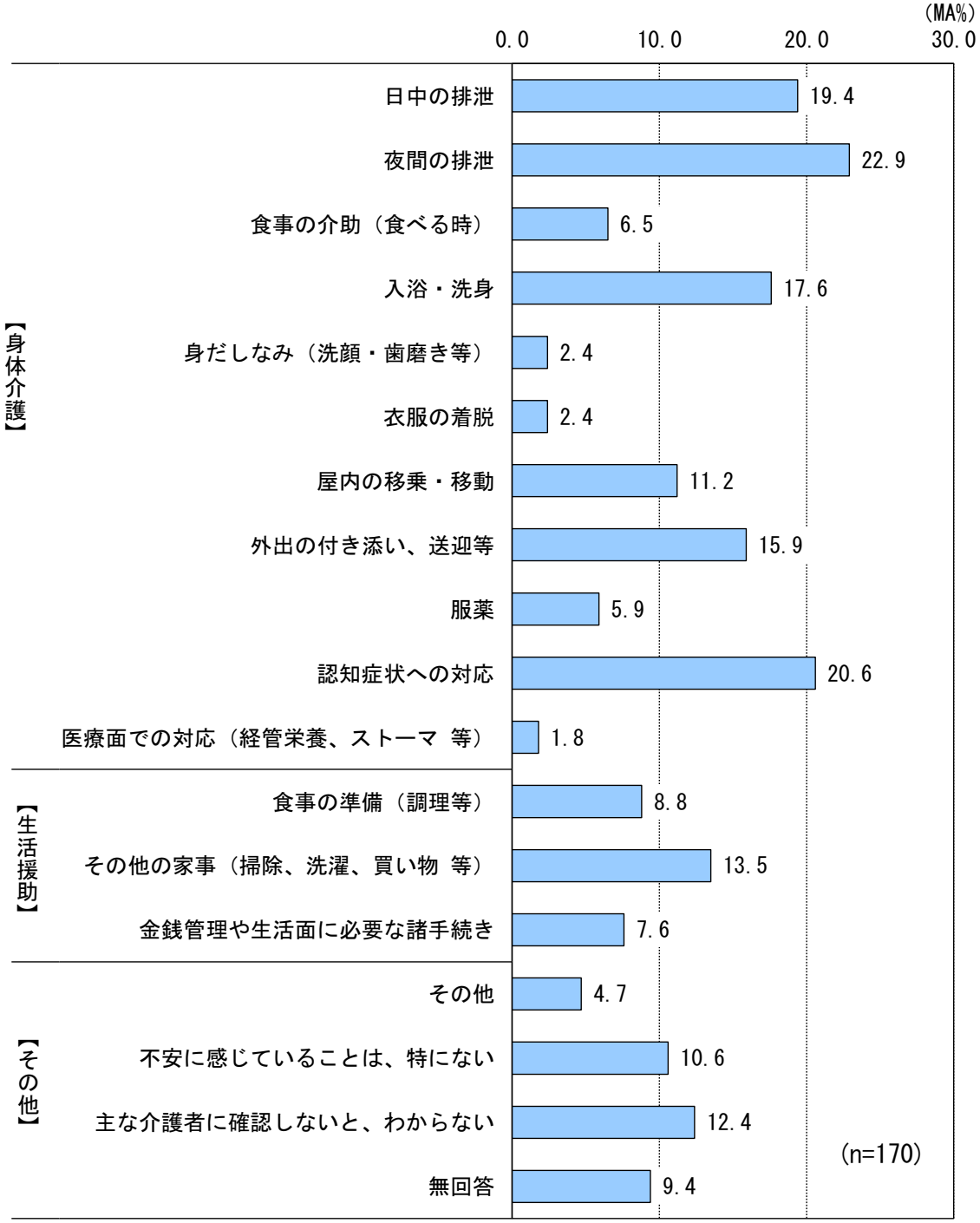
●介護のための離職の有無

ご家族やご親族の中で、介護を主な理由として、過去１年の間に仕事を辞めた方がいるかをみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 88.8%を占めており、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 2.9%となっています。



●現在の生活を続けていくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等

現在の生活を続けていくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等をみると、「夜間の排泄」が 22.9%と最も多く、次いで「認知症への対応」が 20.6%、「日中の排泄」が 19.4%となっています。



3 居所変更実態調査

●過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

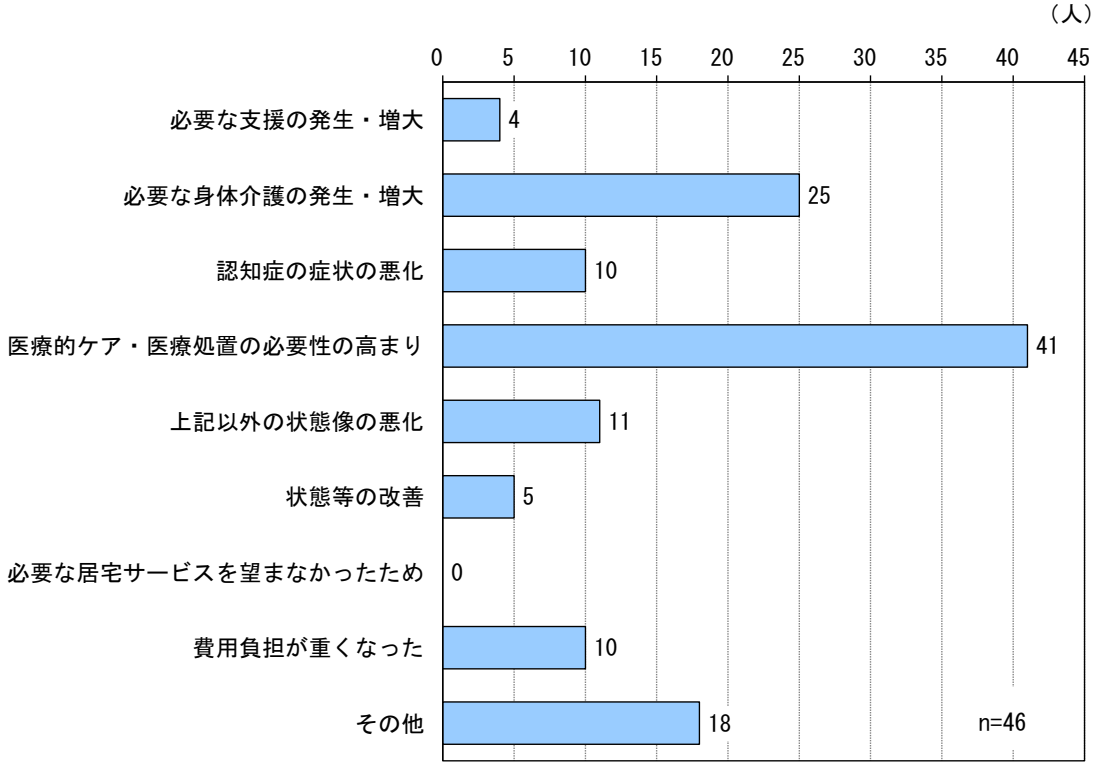
過去１年間の退去•退所者に占める居所変更した方は 797 人、亡くなられた方は 179 人となっています。居所別にみると、居所変更した割合が最も高いのは「サービス付き高齢者向け住宅」、「地域密着型特別養護老人ホーム」、死亡の割合が最も高いのは「療養型・介護医療院」となっています。死亡の割合が高いほど、看取りまでできていると考えられます。

【全体】

サービス種別	居所変更	死亡	合計
住宅型有料	113 人	36 人	149 人
(n=５)	75.8%	24.2%	100.0%
軽費	22 人	4 人	26 人
(n=２)	84.6%	15.4%	100.0%
サ高住	9 人	0 人	9 人
(n=１)	100.0%	0.0%	100.0%
GH	72 人	15 人	87 人
(n=１６)	82.8%	17.2%	100.0%
特定	59 人	21 人	80 人
(n=５)	73.8%	26.3%	100.0%
地密特定	0 人	0 人	0 人
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%
老健	366 人	60 人	426 人
(n=７)	85.9%	14.1%	100.0%
療養型・介護医療院	6 人	19 人	25 人
(n=２)	24.0%	76.0%	100.0%
特養	144 人	24 人	168 人
(n=７)	85.7%	14.3%	100.0%
地密特養	6 人	0 人	6 人
(n=１)	100.0%	0.0%	100.0%
合計	797 人	179 人	976 人
(n=４６)	81.7%	18.3%	100.0%

●居所変更した理由

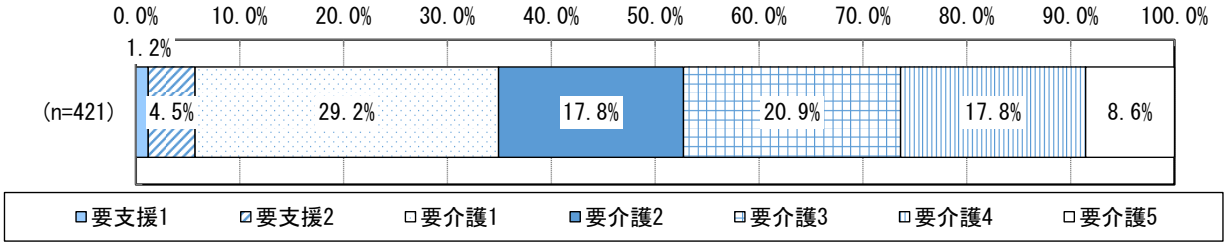
居所変更した理由をみると、「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が 41 人で最も多く、次いで「必要な身体介護の発生・増大」が 25 人となっています。



4 在宅生活改善調査

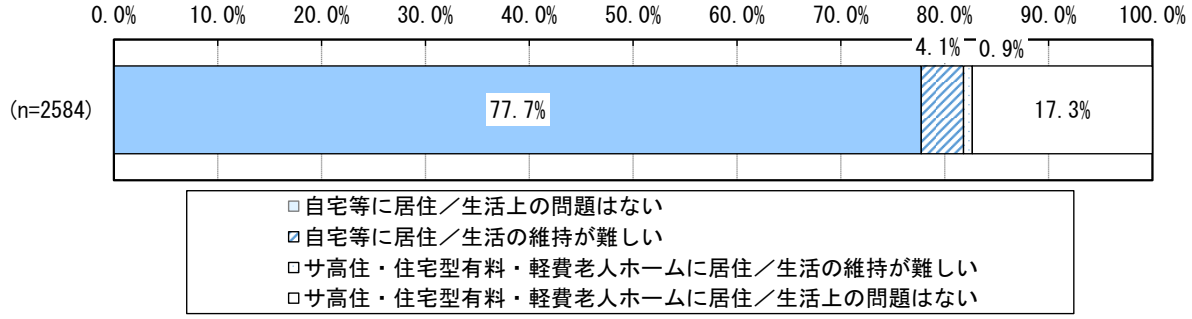
●過去１年間に自宅などから居場所を変更した利用者の要介護度の内訳

過去１年間に自宅などから居場所を変更した利用者を介護度別にみると、「要介護１」が 29.2%で最も多く、次いで「要介護３」(20.9%)、「要介護２」、「要介護４」(17.8%)の順となっています。



●現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の状況をみると、「自宅等に居住／生活の維持が難しい」が 4.1%、「サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに居住／生活の維持が難しい」が 0.9%となっており、合わせて 5.0%の方が在宅での生活の維持が困難になっている状況です。

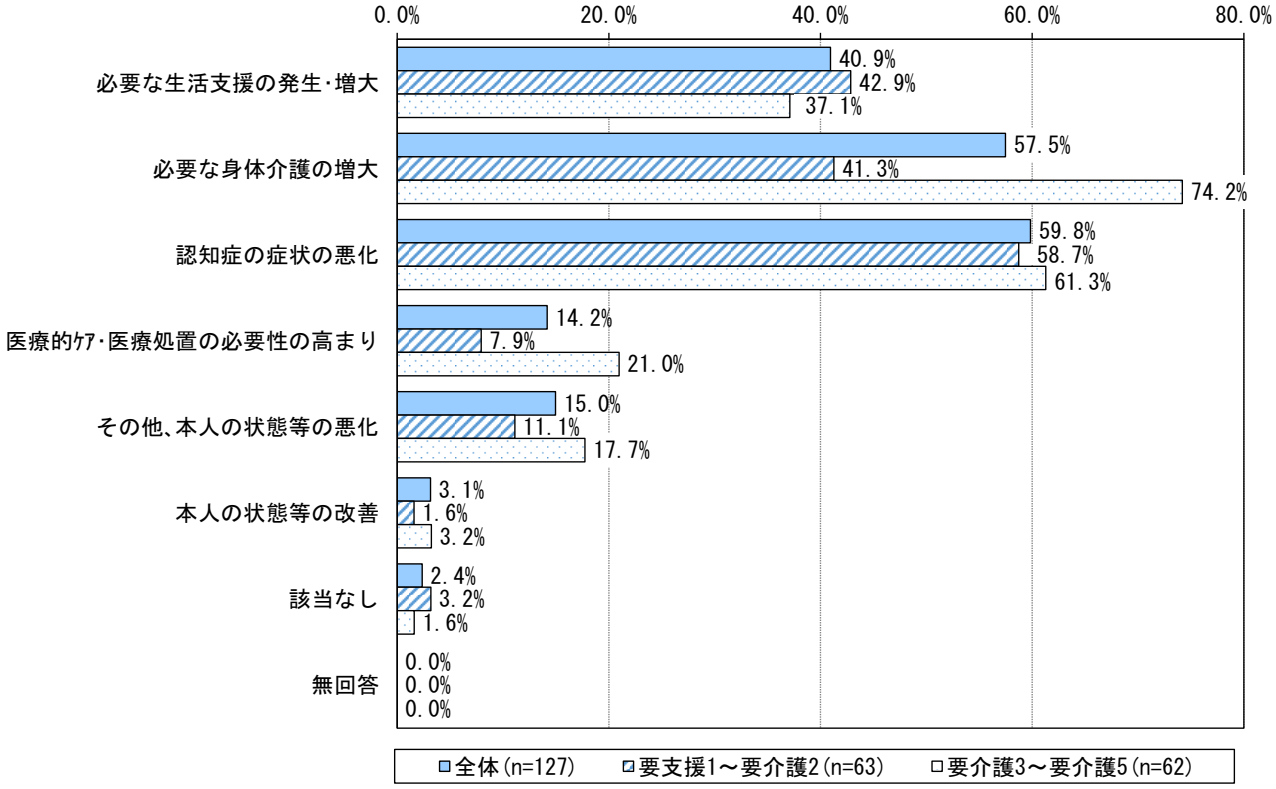


●生活の維持が難しくなっている理由

■本人の状態に属する理由

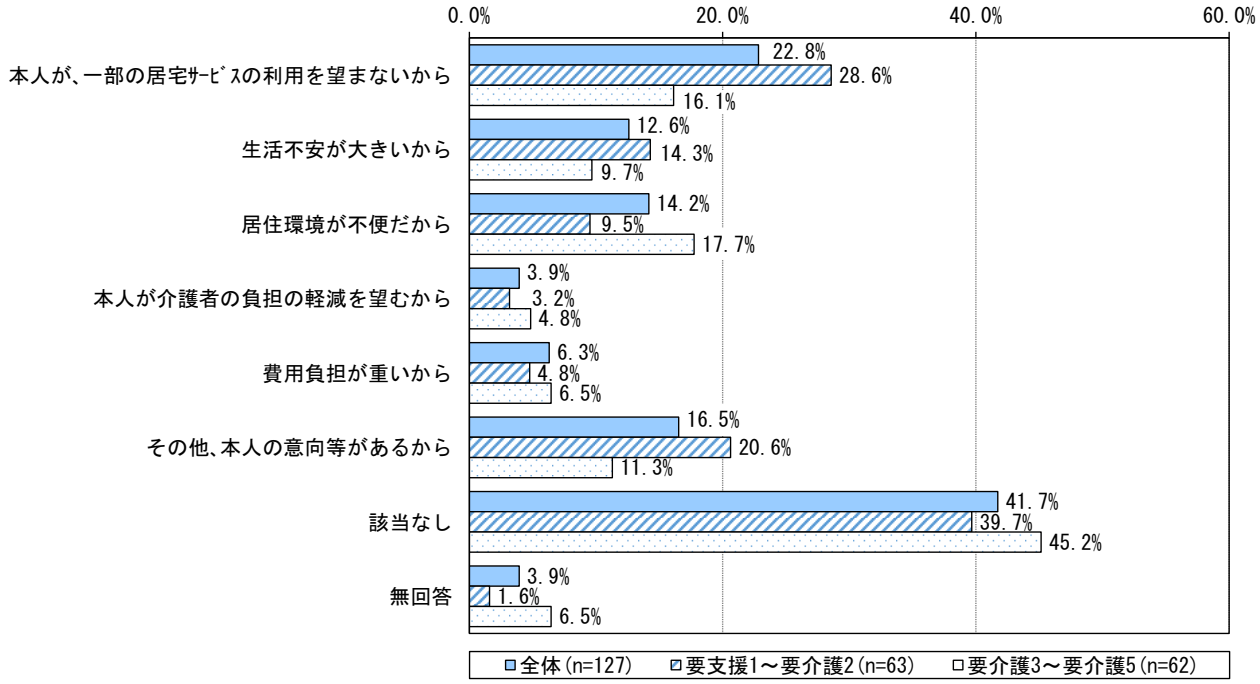
生活の維持が難しくなっている理由として、本人の状態に属する理由では、「必要な身体介護の増大」、「認知症の症状の悪化」が多くなっています。

特に「必要な身体介護の増大」は要介護３～要介護５で 74.2%と多くなっています。



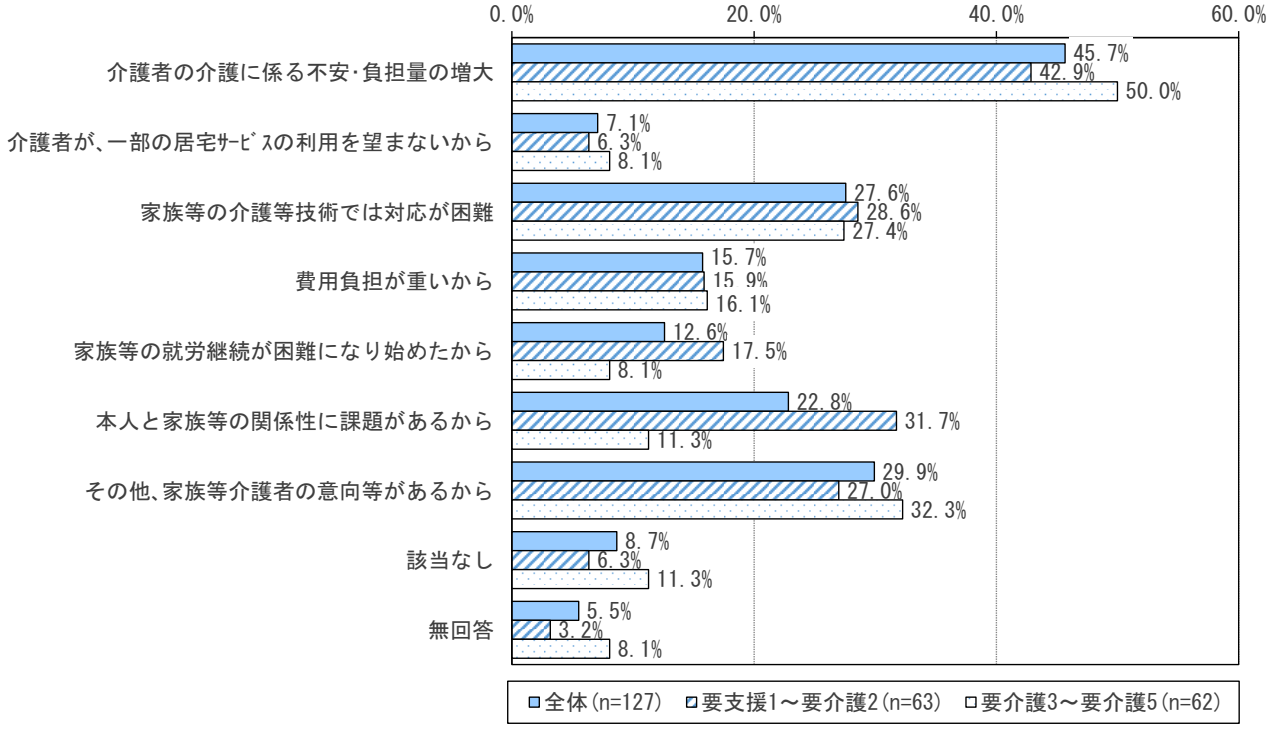
■本人の意向に属する理由

本人の意向に属する理由では、「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」が全体で 22.8%と最も多くなっています。認定該当状況別にみると、要支援１～要介護２では「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」が 28.6%、要介護３～要介護５では「居住環境が不便だから」が 17.7%と多くなっています。



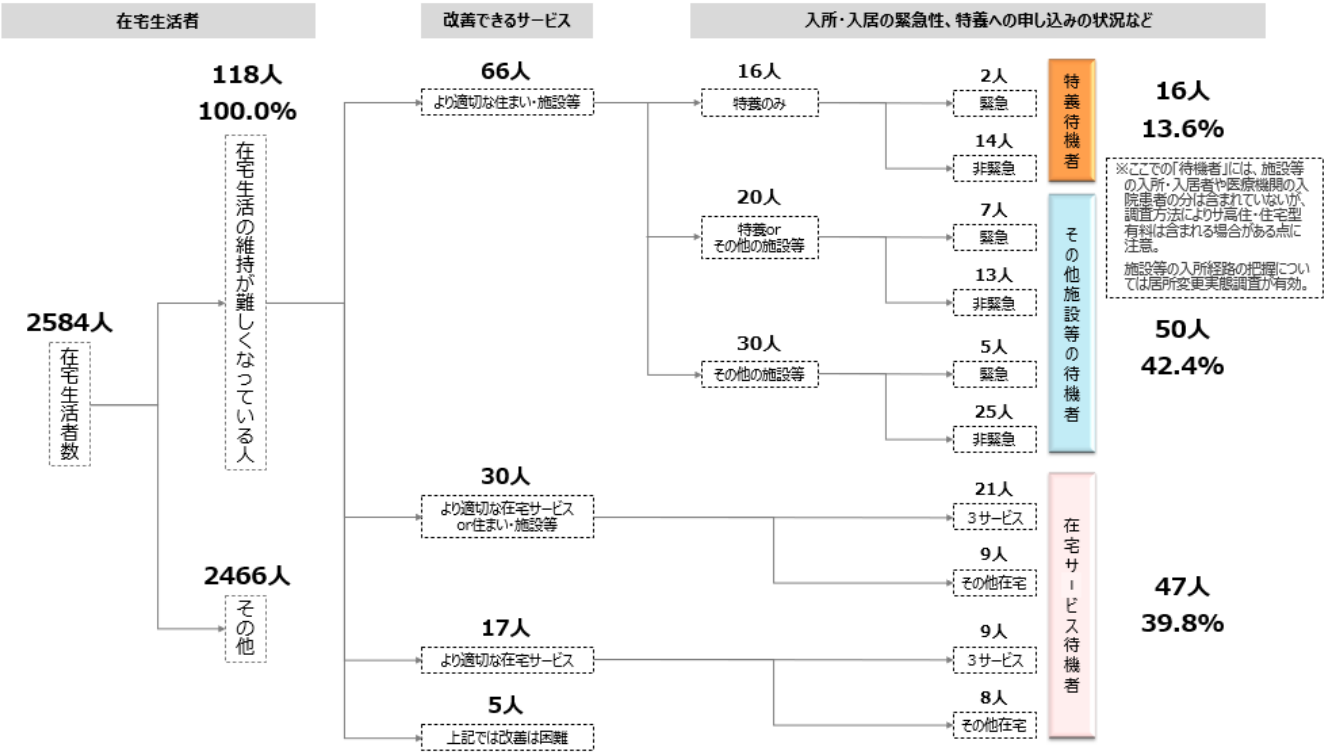
■家族等介護者の意向･負担等に属する理由

家族等介護者の意向・負担等に属する理由では、全体、認定該当状況別ともに「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が最も多くなっています。



●「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更

生活の維持が難しくなっている人の生活の改善に必要なサービスをみると、区分可能な 118 人のうち、特別養護老人ホームへ 16 人、その他施設等へ 50 人、在宅サービスへ 47 人それぞれをサービス変更することで生活が改善されると予想されます。



※1「より適切な在宅サービス or 住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類。

※2「生活の維持が難しくなっている人」の合計 127 人のうち、上記の分類が可能な 118 人について分類（分類不能な場合は「その他」に算入）。割合（%）は、118 人を分母として算出。

※3「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めている。

※4 上記に示す人数は、「回答実数」。

●「その他施設等の待機者」と「在宅サービス待機者」の生活の改善に必要なサービス

前ページでその他施設等の待機者に分類された 50 人の生活の改善に必要なサービスは「グループホーム」、「特別養護老人ホーム」が 40%以上と多くなっています。

在宅サービス待機者に分類された 47 人の生活の改善に必要なサービスは、住まい・施設等でも「グループホーム」、「特別養護老人ホーム」が 20%以上と多く、在宅サービスでは、「定期巡回サービス」が 40.4%と多くなっています。

生活の改善に必要なサービス	その他施設等の待機者(50人)			在宅サービス待機者(47人)		
住まい・施設等	住宅型有料	14人	28.0%	住宅型有料	6人	12.8%
	サ高住	13人	26.0%	サ高住	3人	6.4%
	軽費老人ホーム	4人	8.0%	軽費老人ホーム	3人	6.4%
	グループホーム	24人	48.0%	グループホーム	10人	21.3%
	特定施設	10人	20.0%	特定施設	4人	8.5%
	介護老人保健施設	17人	34.0%	介護老人保健施設	7人	14.9%
	療養型・介護医療院	2人	4.0%	療養型・介護医療院	3人	6.4%
	特別養護老人ホーム	20人	40.0%	特別養護老人ホーム	10人	21.3%
在宅サービス	－			ショートステイ	9人	19.1%
				訪問介護、訪問入浴	12人	25.5%
				夜間対応型訪問介護	6人	12.8%
				訪問看護	2人	4.3%
				訪問リハ	2人	4.3%
				通所介護、通所リハ、認知症対応型通所	14人	29.8%
				定期巡回サービス	19人	40.4%
				小規模多機能	14人	29.8%
				看護小規模多機能	4人	8.5%

生活の改善に向けて、代替が可能

※回答は複数選択可能。

※割合は、それぞれ、その他施設等の待機者 50 人、在宅サービス待機者 47 人を分母として算出。

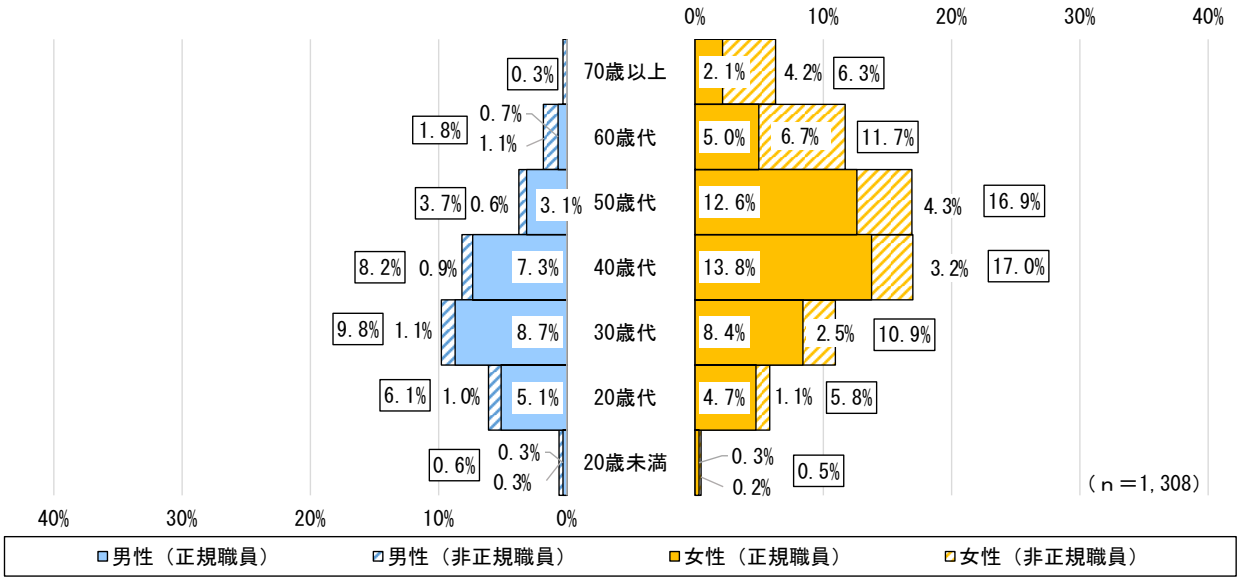
※「在宅サービス待機者」について、生活改善に必要なサービスとして「住まい・施設等」と「在宅サービス」の両方を回答している場合は、代替が可能としている。

5 介護人材実態調査

●性別・年齢別の雇用形態の構成比

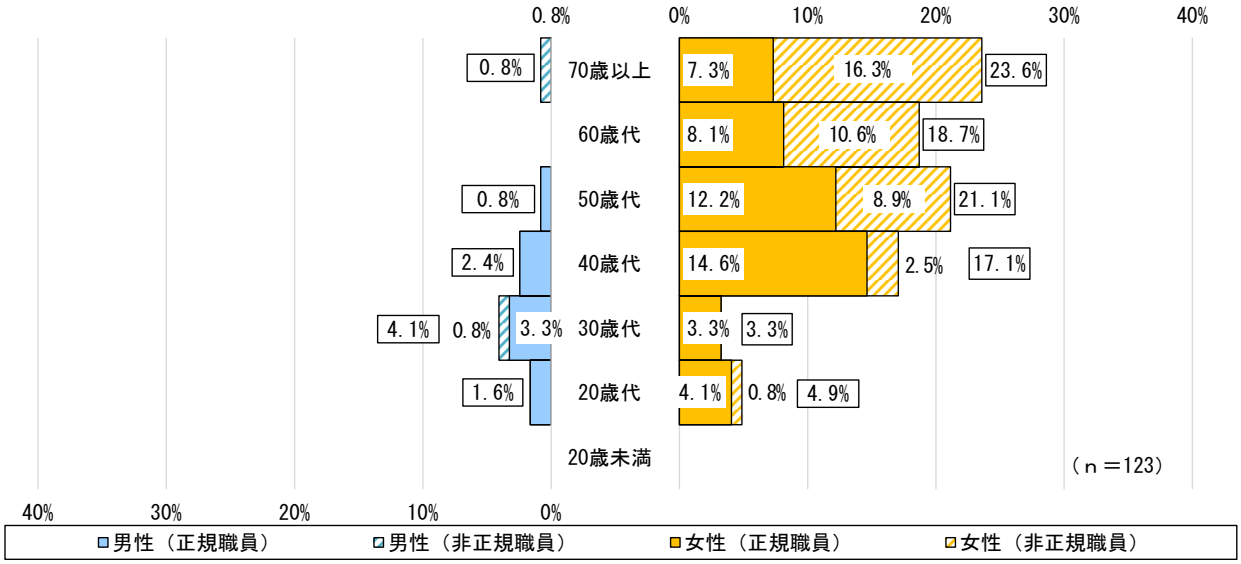
■全サービス系統

全サービス系統の雇用形態の構成比をみると、男性よりも女性が多く、女性では 60 歳代まで年齢が上がるにつれて非正規職員が多くなっています。また、年代別にみると、男性では 30～40 歳代、女性では 40～50 歳代の占める割合が多くなっています。



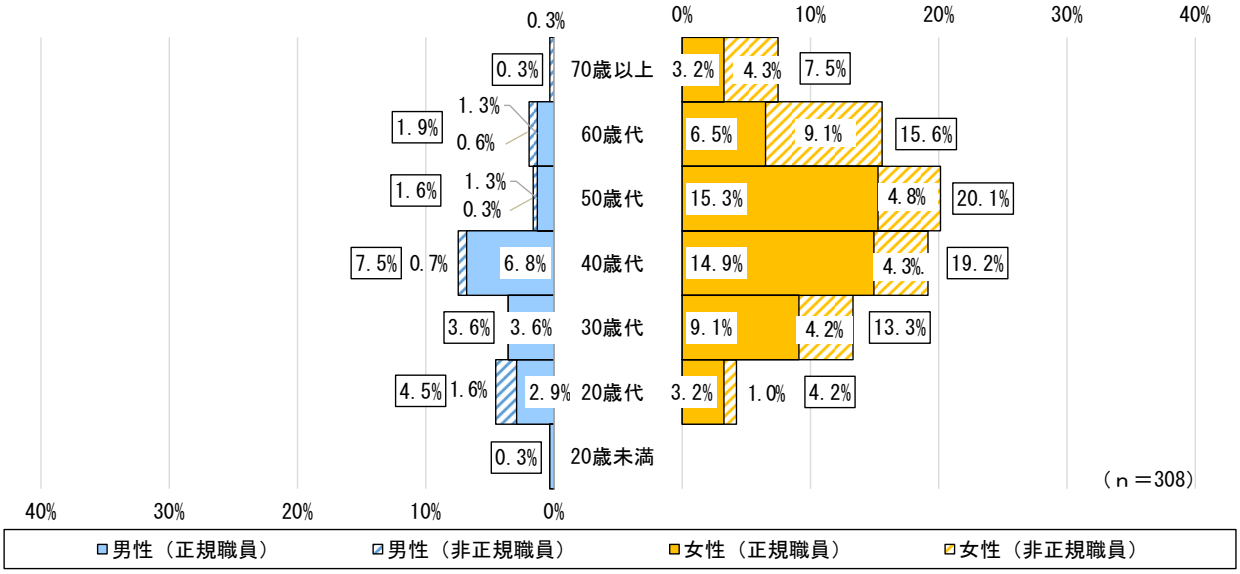
■訪問系

訪問系の雇用形態の構成比をみると、雇用者の多くを女性が占めており、特に 40 歳代以上の占める割合が多く、特に 70 歳以上が 23.6%と最も多くなっています。また、女性の 50 歳代までは正規職員の占める割合が多く、60 歳代からは非正規職員が多くなっています。



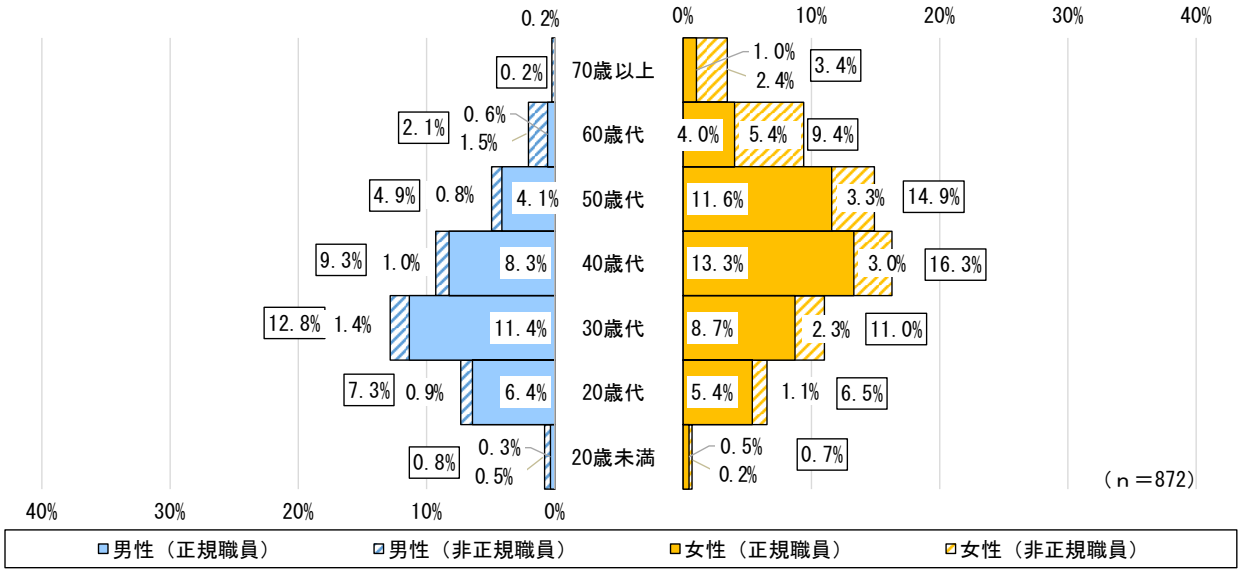
■通所系

通所系の雇用形態の構成比をみると、正規職員は女性の 50 歳代が 15.3%と最も多く、非正規職員は女性の 60 歳代が 9.1%と多くなっています。20 歳代では女性より男性が多く 4.5%となっています。



■施設･居住系

施設・居住系の雇用形態の構成比をみると、訪問系・通所系よりも男性の割合が多くなっています。男性では 30 歳代が 12.8%、女性では 40 歳代が 16.3%と多くっています。



●介護職員数の変化

介護職員数の変化をみると、訪問系では採用者 41 人、離職者 30 人、通所系では採用者 60 人、離職者 51 人となっており、昨年比 100%を超えています。施設・居住系では採用者 176 人、離職者 179 人と、離職者がやや上回っています。

【全体】

サービス系統（該当事業者数）	職員総数（人）			採用者数（人）			離職者数（人）			昨年比（%）		
	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計
全サービス系統 (n=111)	984	423	1407	169	109	278	168	92	260	100.1	104.2	101.3
訪問系 (n=21)	94	112	206	15	26	41	15	15	30	100.0	110.9	105.6
通所系 (n=45)	222	98	320	39	21	60	31	20	51	103.7	101.0	102.9
施設・居住系 (n=43)	664	212	876	114	62	176	122	57	179	98.8	102.4	99.7

※昨年比＝昨年職員数(職員総数－採用者数＋離職者数)÷職員総数